



東京都高等学校数学教育研究会
事務局 都立江北高等学校内
事務局長 吉 田 亘
発行所 都立拝島高等学校内
編集発行人 水 本 香
都数研HP <http://tosuiken.jp/>

令和元年度 総会

令和元年度総会が、令和元年5月18日(土)13:30から都立武蔵高等学校にて行われた。開会の辞・会長挨拶と始まり、昨年度夏に行われた第100回全国算数・数学教育研究(東京)大会の実行委員長である池田様より来賓挨拶も行われた。議事の流れは以下の通りである。

1. 平成30年度事業報告
2. 平成30年度決算および監査報告
3. 令和元年度 役員選出
4. 令和元年度 会長挨拶
5. 令和元年度 事業計画
6. 令和元年度予算
7. 令和元年度 役員・理事

なお、上記3にある役員選出であるが、昨年度の萩原会長に代わり、今年度から江戸川高校の藤田校長が会長に就任された。主な役員一覧は以下の通りである。

会 長 藤田 泉 (江戸川・長)
副 会 長 塩谷 耕 (京華女子・長)
梅原 章司 (小石川中等・長)
加藤 竜吾 (中部支所)

事 務 局 長 吉田 亘 (江北)
事務局次長 宇佐美 俊哉 (保谷)
研 究 部 長 白田 三知永 (小松川・長)
副部長 幸田 諭昭 (立川国際・長)
加藤 瑞樹 (東久留米総合・長)
山下 康弘 (北園・長)
定 通 部 長 佐々木 雅人 (葛西南・長)
編 集 部 長 水本 香 (拝島・長)
副部長 白鳥 靖 (多摩科学技術・長)
中川 徹 (府中・長)
高木 和美 (八王子桑志・長)
大島 和華子 (若葉総合・副)
奥村 英夫 (篠崎)
監 事 石崎 規生 (世田谷泉・長)
萩原 聡 (西・長)
高橋 豊 (武蔵・長)

その他の議事は全て承認され、研究発表に移った。発表に関しては次のページに記載する。

会長挨拶



会長 藤田 泉 (江戸川高・校長)

令和元年5月、東京都高等学校数学教育研究会(以下、都数研)の会長としてその任を負うこととなりました。東京都立江戸川高等学校長の藤田です。諸先輩方の御尽力や会員の皆様の活動のお蔭をもちまして、会員数も増え、都数研の活動を財務面でも安定して支援していくことができるようになりました。今後においても都数研の活動が広く高等学校の数学教育の発展に貢献したり、会員相互の情報交換をしたりする場となるようにしていきたいと思っております。会員の皆様の御支援と御協力をいただきながら、微力ながらも努力いたしますのでよろしく願いいたします。

今年度の活動は例年と同じく、東京都教育委員会の研究推進団体及び東京都教職員研修センターの研究普及団体として指定を受け、年間3回の授業研究、講演会を行います。また、学習指導法、大学入試、ICT、数学I、定通の各分科会では新学習指導要領を見据え、カリキュラム・マネジメントの視点に立った授業開発に向け議論を進めていきます。加えて編集部におい

ては、「研究集録」の発行や各分科会の成果を年3回発行の「会報」にまとめ都数研のホームページに掲載することで、広く全国に向けて発信していきます。

さて、近年、社会を取り巻く環境は加速度的に変化しており、将来を過去の延長線上では予測することが困難な時代を迎えています。このような社会環境の変化はこれからを担う生徒たちの生き方に大きな影響を与えます。私たち数学教育に携わる者にとって、数学教育を通して生徒たちが社会の変化に積極的に向き合い、主体的に学び続け、他者と協働して新しい価値観を生み出していく力を育てていくことが求められていると思えます。

研究部の5つの分科会の活動は、これまでの教材開発、指導法開発、評価法開発などに加え、これからはこうした社会の変化を見据えた実践を創出し、幅広く議論を重ね、新学習指導要領に柔軟に対応していくことが必要だと考えています。仲間と共に悩んだり、アイデアを持ち寄ったり、研究しあったりしながら、新たな時代の数学教育を切り開いていきましょう。

今年度も会員の皆様にとって実り多き1年であることと同時に、新たに研究活動に参加される方を心よりお待ちしております。

総会・研究発表会報告

◎活動紹介

研究部の各分科会及び編集部から活動紹介を行った。

・学習指導法分科会

主に日比谷高校で活動中。「高校生に興味・関心を抱かせる数学の教材集の作成」を念頭に置き、授業への応用・還元できることを目標にして、指導法や生徒から出た疑問や誤答、教材の応用例などの研究を行っている。

・大学入試分科会

主に小石川中等で活動中。関東近辺の約50大学の入試問題を解き、その問題の出題背景や前提となる予備知識について意見交換を行っている。大学入試問題の傾向や分析、高校の授業に還元できる内容へと研究協議を進めている。

・ICT分科会

「数学教育へのICTの活用」をキーワードに活動している。

近年、都立高校ではICT機器の整備が進み、活用具合も多岐に渡ようになってきた。コンピュータソフトウェアの活用例だけでなく、電子黒板をはじめとする周辺機器の活用も研究の視野に入れている。なお、今年度の研究発表はICT分科会からの発表があり、右にその内容を記載する。

・数学I分科会

特定の場所で活動、といった訳ではなく、様々な場所で行っている。「数学I」は全ての学校の履修科目であるので、多様な学校に勤めていても、その悩みや指導法の工夫は通ずる所がある。様々な校種の方々が揃い、意見交換を中心として研究協議を行っている。

・定通分科会

2ヶ月に1回のペースで活動中。学習指導案の協議から研究授業・教材研究など様々な角度から実践的な研究を行っている。定時制課程においては、各校では人数が少ないためになかなか相談する機会が生まれない。定通分科会では複数の数学科教員が集まるため、上記のような研究協議だけでなく悩みの共有なども行うことができる。

・編集部

現在ご覧いただいているこの会報も編集部が作成している。年に3回デジタル会報を発刊し、年間誌として研究集録の編集作業を行っている。上記の分科会活動が都心部で行われることが多く、多摩地区周辺でも活動が何か出来ないかということで、近年は2月に編集部勉強会と題した研究発表を行っている。都数研全ての活動に参加することは難しいが、このような会報等の編集作業をしていることで、自分自身がその活動に参加したかのように知識をつけることができ、教員としての視野も広げることができる。分科会の活動に参加する時間が無いという方にこそぜひ編集部にご加入いただきたい。

上記のような活動紹介が終わり、ICT分科会による研究発表に移った。内容は右の通りである。

研究発表①

「数学教育におけるICTを活用した授業実践における一考察」
片江 康裕 (科学技術高)

現状の教育環境でどこまでICTを活用した授業の実践が可能であるか、誰もができるICT教育とはどのようなものかについて考察を行い、生徒に実施したアンケート調査も踏まえて分析・発表を行った。今回は教材の工夫に着眼点を置くのではなく、ICTを現在の教育環境でどのように活用していくか、というところに観点を置いた。以前に比べ都立高校ではICT環境が大幅に改善されたが、学校間による差異はあるものの、誰もが、どの学校でも実践のできる授業について自身の実践を踏まえ、一考察としての発表であった。

研究発表②

「教師が、講師を止めました～教師の再定義～」
茂木 桂樹 (日大鶴ヶ丘高・淑徳巣鴨高)

生徒が高校数学を勉強する意味について考え、ICT教育で可能になる教育の在り方について発表を行った。ICT教育で可能な5項目(効率向上・強制[監視]・個別対応・共有・視聴覚化)を挙げ、授業の目的に応じてICTを活用した授業を組み立てていく、今回は実践例について発表を行った。その特徴として大きなものが、「授業は教員ではなく生徒が中心となっていく」ということである。特に予習の必要もなく、指名された生徒が教科書に書かれている内容を教団に立って仲間に説明し、別の指名された生徒がその説明について質問を必ず入れる、というスタイルであった。すると生徒は説明せざるを得ない責任感と、質問されても全て論破したいという欲求から、隅々まで調べようとする。その際にICTを活用し、調べ学習を行っている。もちろん説明を入れなければならない大事な所は教員が説明するが、ただ聞いているだけの生徒はいなくなったという。かつ全員が「考えなければならない」という状態になり、思考力の養成にも繋がっていく。新たな視点での発表だったため、その後の質疑応答では活発に意見交換がなされた。



文責：編集部 大平 剛弘 (都八王子東高)

第 9 2 回授業研究・研究協議会 報告

日 時 令和元年 6 月 20 日(木)
 13:30~16:30
 場 所 都立多摩科学技術高等学校
 (参加者約 35 名)

1. あいさつ

- ・会長： 東京都数学教育研究会会長
 都立江戸川高等学校長 藤田 泉
- ・会場校： 都立多摩科学技術高等学校長 白鳥 靖

2. 研究授業の観点について

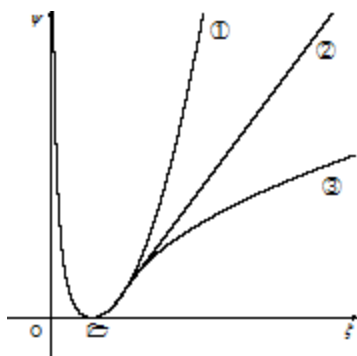
- ・本日の授業研究の観点について
 東京都高等学校数学教育研究会学習指導法分科会
 都立八王子東高等学校 主任教諭 平井 恒
- ・思考・判断・表現：導関数の極限と関連づけて、関数の振る舞いを考察することができる
- ・凹凸のイメージの難しい関数 $y = (\log x)^2$ のグラフを利用し増
 加の仕方のパターンを考えさせ、答えに導くことができる
 (自力、グループとそれぞれ考える時間を設ける)

3. 研究発表

- ・授業研究 数学Ⅲ「微分法の応用」
 都立多摩科学技術高等学校 教諭 夏原 智史
- まず一つ目「 $y = (\log x)^2$ の増減表を調べグラフをかこう」と

生徒たちに発問し、自力解決のためタイマーで 6 分計測。生徒たちは取り組み、授業者は机間指導を行う。生徒たちはまず増減表をかきはじめた。代表生徒が増減表を黒板に書くと以下ようになった。

x	0	...	1	...
$f'(x)$	/	-	0	+
$f(x)$	/	∨	0	∧



生徒が書いた増減表から、 $x = 1$ より大きい部分ではグラフがどのようになっているか考えさせる。生徒の発言により以下の 3 通りが候補となった。

そこで本時二つ目の発問「①~③のグラフかを明らかにするためには、どうすれば良いか考えよう」残りの時間をグループワークで行った。生徒の中にはもう一度、微分すれば良いのではと取り組みの中で気づいた生徒もおり、授業の最後に「接線の傾きの増減は $f'(x)$ の増減→ $f'(x)$ を微分すれば①~③がわかる」というまとめに納得している生徒も多かった。

4. 研究協議

◆授業者より
 ①~③を決定づけるための考え方は様々意見としてでたが、計算方法で求めるにはどうすれば良いかと追求する時間を早めにとると良かった。

◆グループ協議

生徒と先生の関係が素晴らしく生徒が自ら考えて発表ができるアクティブラーニングだった。導入の問題にも工夫がみられ、そのグラフだからこそ考えられる①~③の選択肢の授業計画性も良かった。①~③が計算で思いつかない生徒には、実際に点をプロットしてグラフの概形をとらえさせるというのも一つの手法ではないかという意見もあった。

5. 学習指導法文科会による研究発表

「比較と予想を取り入れた授業のちょっとした工夫」
 都立西高等学校 主任教諭 村形 政信
 確かな学力のための主体的とは予想をたてることであり、対話的とは比較を取り入れることだという観点で授業の実践例を紹介。

6. 閉会の挨拶

生徒が自ら気づき学びとっていくためには、良い教具や教材を互いに活用し失敗しても挑戦し続け、教員がファシリテーターとなる授業を実践していくことが大切である。

文責 編集部
 嶋本 未希 (都立江北高等学校)
 平澤 陽子 (都立桜修館中等教育学校)

研究部だより

【数学 I 分科会】

①取り組みとテーマ

今年度も昨年同様、研究テーマを設定せず、分科会参加者の興味・関心のある分野・内容（数学 I・数学 A やそれらの発展例）について個人研究をおこない、研究協議会で発表することとした。

②活動日程

第 1 回 6 月 28 日(金) 16:30～ 都立日比谷高校

第 2 回以降はほぼ毎月開催予定

※日程、会場は決定次第、都数研ホームページに掲載する。

③令和元年度の世話人

都練馬工業高 佐々木啓丞
都東村山西高 村越 智

【学習指導法分科会】

①取り組みとテーマ

今年度も「高校生に興味・関心を抱かせる数学の教材集づくり」というテーマで研究を続け、第 101 回全国算数・数学教育研究(沖縄)大会にて研究発表を行う。

2009 年度から、教材集を印刷・製本している。

大学生から 80 代の大ベテランまで、都立だけでなく国立や私立学校も、高校だけでなく中学や大学の先生も参加している。

②活動日程

第 1 回 4 月 20 日(土) 14:00～ 3 時間程度 都日比谷高

第 2 回 5 月 25 日(土) 14:00～ 3 時間程度 都日比谷高

第 3 回 6 月 22 日(土) 14:00～ 3 時間程度 都日比谷高

第 4 回 7 月 13 日(土) 14:00～ 3 時間程度 都日比谷高

(11 月 30 日(土) 14:00～ 3 時間程度 都日比谷高)

※その他の日程は未定。都数研ホームページに掲載する。

③令和元年度の世話人

都日比谷高 荻野 大吾
都西高 村形 政信

【ICT 分科会】

①取り組みとテーマ

- 1) ICT 分科会のサイトを活用した教材の共有教材の整理
- 2) ICT を活用した授業研究
- 3) GRAPES や GeoGebra 等のコンピュータソフトウェアの活用・教材作成
- 4) デジタル教科書の研究
- 5) ICT 機器の活用
- 6) ICT 講習会の開催

②活動日程

第 1 回 4 月 13 日(土) 14:00～ 3 時間程度 都保谷高

第 2 回 6 月 8 日(土) 14:00～ 3 時間程度 都保谷高

※その後は決定次第、都数研ホームページに掲載する。

③令和元年度の世話人

都武蔵丘高 飯塚 京子
都保谷高 宇佐美俊哉

【大学入試分科会】

①取り組みとテーマ

関東近辺の大学を中心に入試問題の研究を行っている。

毎月 1 回定例会を開き、各自が分担した大学入試問題の検討結果を報告し、どのような解法が考えられるか、その問題の背景にどのような定理・公式・理論が広がっているか、日々の授業にフィードバックできることはないか等の研究協議を行っている。

また、1 年間の研究成果をまとめ、研究集録に「2019 年度大学入試問題の研究」を掲載する。

一人ですべての大学の入試問題を解き、研究するのは困難であるが、仲間とともに研究することにより、多くの入試問題に触れることができる。そのため、大学入試に対応する力が飛躍的に向上する分科会である。

②活動日程

第 1 回 4 月 19 日(金) 18:00～ 2.5 時間程度 小石川中等

第 2 回 5 月 24 日(金) 18:00～ 2.5 時間程度 小石川中等

第 3 回 6 月 28 日(金) 18:00～ 2.5 時間程度 小石川中等

※その後は決定次第、都数研ウェブサイトに掲載する。

③令和元年度の世話人

都町田高 鈴木 智秀
都小石川中等 前田 徹

【定通分科会】

①取り組みとテーマ

秋頃に、都立小金井工業高校 定時制課程 森田 聡 主任教諭による研究授業を実施する。

その指導案を秋までに研究協議する。

さらに、1 月に行われる定通教育指導体験発表会において、研究成果を発表する。

②活動日程

第 1 回 5 月 14 日(火) 17:30～ 4 時間程度 都小金井工高

第 2 回 8 月下旬(日時未定) 2 時間程度 都小金井工高

※以降、決定次第、都数研ホームページに掲載する。

③令和元年度の世話人

都葛西南高長 佐々木雅人
都蔵前工業高 浅井 嘉信
都六本木高 池田 卓也
都浅草高 松澤 匡弘

文責 編集部 武井 政博(都大泉桜高)

指導部だより

指導部主任指導主事 横田 雅博

平成30年3月に公示された新しい高等学校学習指導要領は、改訂に伴う移行措置並びに移行期間中における学習指導等についての通知を受けて、総則、総合的な探究の時間、特別活動などが既に先行実施されています。また、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成することを目指す新学習指導要領の趣旨を十分に踏まえて指導されるようにすることも、本年度から求められています。

東京都教育委員会では、新学習指導要領の実施に向けて、平成28年度からアクティブ・ラーニング推進校、平成29年度からカリキュラム・マネジメント推進校を指定し、今年度からは新たに、ALCMコミュニティとして都立高校14校を指定いたしました。また、カリキュラム・マネジメントを確立するために、学校の教育目標や育成を目指す資質・能力、それらを達成するための教科等における具体的な評価基準などを可視化した学校の教育活動全般の特色を示す、グランドデザインの構築を全都立高校にお願いしているところです。これらの教育施策をつなげることで、新学習指導要領の円滑な実施に結び付けたいと考えております。

一方、高校教育改革に関連して、学習評価の見直しや指導要録の記載事項の改善等に関する通知が、本年3月に出されました。この通知によれば、各教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理した新学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進する観点から、観点別学習状況の評価の観点についても、これらの資質・能力に関わる「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理して示されました。また、高等学校における観点別学習状況評価の充実を図る一環で、高等学校の指導要録の参考様式に観点別学習状況の評価の記載欄が新設されています。今後は、高等学校における学習評価の在り方について検討・確立していく必要があります。

そこで、今年度の教育研究員及び研究開発委員会では、学習評価の充実を図ることを目的の一つに挙げて、前者では、「学校の教育活動全体を通して育成すべき『資質・能力』を育むための授業改善と学習評価の充実」、後者では、「カリキュラム・マネジメントの視点に立った、各教科における『深い学び』を実現するための学習評価の充実」を研究テーマに設定し、研究を進めています。是非、研究員にお声をかけていただくとともに、年度末に開催されます研究発表には、多くの先生方にご参加いただき、御教示いただければ幸いです。

ところで、中央教育審議会は新たな審議を始め、「新しい時代の初等中等教育の在り方について」の中で、「普通科改革など学科の在り方」、「STEAM教育の推進」が議論されます。

東京都高等学校数学教育研究会の皆様には、今後とも都教育委員会の取組について御理解頂くと共に、文部科学省の動向を注視していただき、東京の教育を更に充実したものにしていだくことを期待いたします。

東京都教職員研修センターだより

研修部専門教育向上課 指導主事 徳永 政雄

教職員研修センターでは、算数・数学に関する研修講座を8講座実施し、東京都の算数・数学教育の更なる充実を図っています。以下に高等学校数学に関する講座を紹介いたします。

研修名【数学ⅠA】

「数学的活動の充実に向けた数学の授業づくり」

数学的活動について理解を深め、数学の授業づくりの基礎を学びます。

- 第1回 7月30日(火)午前 <演習他>
教職員研修センター
- 第2回 8月9日(金)午後 <演習他>
教職員研修センター
- 第3回 9月～11月 午後 <授業研究>
都内公立学校

研修名【数学ⅡB】

「数学的に考える資質・能力を育成する数学の指導の充実」

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指した指導力の向上を図ります。

- 第1回 8月23日(金)午後 <演習他>
教職員研修センター

研修名【数学ⅡC】都数研との連携研修

「高等学校数学に関する授業研究と講演会」

学習指導要領の目標を踏まえ、多様な生徒の実態に対応した授業展開や指導の工夫について学び、指導力の向上を図ります。

- 第1回 6月20日(木)午後 <授業研究>
都立多摩科学技術高等学校
- 第2回 7月4日(木)午後 <講義>
千代田区立九段中等教育学校
- 第3回 11月 午後 <授業研究>
都立紅葉川高等学校

研修名【数学Ⅲ】

「数学に関する専門的な内容の理解の充実」

数学の専門的知識・理解を深め、数学的に考える資質・能力の育成に向けた指導力の向上を図ります。

- 第1・2回 8月27日(火)午前・午後 <演習他>
東京理科大学(飯田橋)

平成30年3月30日に高等学校学習指導要領が告示され、今年度は移行期間となっています。

各学校におかれましては、全面実施に向けて学習指導要領の改訂の基本方針を踏まえた教育課程の編成及び授業改善が必要となり、様々な計画を立てていることと思います。

高等学校の数学の特質に応じた授業改善としてのポイントは、数学的な見方・考え方を働かせた学習活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成するための指導に基づく生徒の主体的な学習活動と学習評価の更なる充実ととらえています。また、教育活動の充実を実現するためには、学習目標を達成させるためのカリキュラム・マネジメントがより求められます。

研修センターの研修を活用していただき、授業改善や数学を通して生徒の生きる力を育む教育活動の更なる充実につながっていただくことを期待しています。

編集部より

編集部長 水本香(都拜島高・校長)

令和元年度の編集部の活動予定を紹介します。

1 研究集録 56 号の発行

令和 2 年 3 月の発行を目指して取り組みます。各分科会の 1 年間の研究成果を掲載する予定です。

この研究集録は、会員及び東京都の国立、公立、私立の高等学校に配布します。

また、研究集録のバックナンバーについても、事務局と連携して、都数研の Web ページに掲載するための準備を進めています。会員限定で Web ページでもバックナンバーを閲覧することができます。

2 デジタル会報の発行

7 月、11 月、3 月にデジタル会報を発行しています。事務局と連携して都数研の Web ページから閲覧できるようにしています。

過去に発行した会報もデジタル化し都数研 Web ページに掲載しております。

このデジタル会報は、会員以外のどなたでも閲覧することができます。

3 研究集録に掲載する投稿論文募集

次号の会報 143 号で、投稿論文の詳細を都数研 Web ページでご連絡いたします。

投稿論文は「数学教育研究を通して高等学校の数学教育の発展を図り、社会発展に貢献する」という東京都高等学校数学研究会の設立趣旨にかなった、実践に役立つ各分科会での研究、交流、協議の成果をまとめたものとします。また、最近の数学教育や生徒の実態についての私見や情報交換も含む内容のものとして。

なお、提出された投稿論文は、本研究会にて査読させていただきます。

4 勉強会の実施

平成 31 年 2 月に、編集部主催の第 6 回勉強会を都立多摩科学技術高校にて実施しました。編集部員を含めた 3 名の発表と元都数研会長であり、現在東京理科大学 特任教授の竹村精治先生から講演をいただきました。今年度も 2 月に実施予定です。

5 編集部へのお誘い

本年も編集部への勧誘を積極的に進めてまいります。現在編集部員は 28 名です。

華々しい研究活動と違い、各分科会や研究協議での講演や発表などの様々な活動をまとめたり、原稿依頼や集約したりと地道な活動をおこなっています。しかし、編集の企画、計画にも関わりながら研究会全体を知る機会にもなると思います。是非、皆様のご参加をお待ちしています。

事務局より

事務局次長 宇佐美俊哉(都保谷高)

1 平成 31 (令和元) 年度都数研関連の主な行事

- 5 月 18 日(土) 総会 都立武蔵高校
 6 月 20 日(木) 第 92 回授業研究
 (研修センターとの連携研修)
 7 月 4 日(木) 都数研講演会、研究発表会
 講演者 椿 美智子 先生
 (電気通信大学 教授 {副学長})
 8 月 6 日(火) 高校生のための先端数理科学見学会
 8 月 7 日(水)~8 月 9 日(金)
 第 101 回全国算数・数学教育研究(沖縄)大会
 11 月 19 日(火) 第 74 回関東甲信静算数・数学教育研究大会
 (千葉)
 11 月 第 93 回授業研究 [日程の詳細未定]
 (研修センターとの連携研修)
 2 月上旬 編集部勉強会 [会場校・日程の詳細未定]
 2 月上旬 宿泊研修(1泊2日, [宿泊地・日程の詳細未定])

2 平成 31 (令和元) 年度会費納入のお知らせ**申込方法**

*正会員・賛助会員(事前に承認を得ている方)は、都数研 WEB に掲載の申込フォームよりお申込みいただけます。

*賛助会員の新規入会の場合は、事務局へご連絡ください。

振込先

銀行 三菱 UFJ 銀行 渋谷支店
 (店番 135 普通口座 0128396)
 名 義 トキョウトコトウカゴッコ スガキキョウイクケンギョウカイ
 東京都高等学校 数学教育研究会
 ジムキョクチャウ フジタイズミ

分科会で一緒に研究しませんか！

各分科会の活動内容については下記世話人までご連絡ください。

- (1) 学習指導法分科会
 荻野大吾(都日比谷高), 村形政信(都西高)
 (2) 数学 I 分科会
 村越 智(都東村山西高), 佐々木啓丞(都練馬工業高)
 (3) ICT 分科会
 宇佐美俊哉(都保谷高), 飯塚京子(都武蔵丘高)
 (4) 大学入試分科会
 鈴木智秀(都町田高), 前田 徹(都小石川中等)
 (5) 定通分科会
 佐々木雅人(都葛西南高長), 浅井嘉信(都蔵前工業高)
 池田卓也(都六本木高), 松澤匡弘(都浅草高)